

灘校文化祭2025

古典文化同好会

競技かるた部誌

ほしはな
ひのか
けるにむ
にか

なかれもあ
へぬもあ
なりけり
みち

みたれそめ
にしわれな
たなくに

こゝろあきは
きこえしき
かなしき

ひるはきこえ
つつものを
こゝろおもへ

やせふふめ
しかあわは
らけかや

からくれな
おにみつ
くるとは

きりたちの
ほるあきの
ゆふくれ

もみちの
しきかみの
まにまに

目次

はじめに	1
第1部 競技かるたとは.....	2
第2部 競技かるたの試合.....	3
第3部 競技かるた用語解説.....	6
おわり	9

はじめに

この度は、古典文化同好会のコーナーに

お越しいただき、ありがとうございます。

“年齢”や“性別”関係なく戦うことができる

競技かるたの世界を存分にお楽しみください。

第1部 競技かるたとは

1 小倉百人一首の成立

「百人一首」とは、100人の歌人の優れた歌を1首ずつ選び100首にまとめたものです。小倉百人一首の歌を選んだのは**藤原定家**※1であると言われています。藤原定家が知人に依頼されて、京都の小倉山のふもとにある山荘のふすまの色紙形※2に百首の歌を書き付けたのが始まりで、小倉百人一首と呼ばれるようになったと伝えられています。

※1 藤原定家(1162～1241)…平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての公家・歌人。晩年に百人一首の選歌を行った。名は「さだいえ」とも言う。

※2 色紙形…色紙の形をした紙。定家が小倉百人一首を書いたものは「小倉色紙」と呼ばれ、室町時代から戦国時代にかけて、これを茶室に飾ることが流行した。

2 小倉百人一首の内容

小倉百人一首は、天智天皇(626～672)の時代から順徳院(1197～1242)の時代までのおよそ600年間に詠まれた歌から選ばれ、1番から100番までほぼ年代順に並んでいます。その100首はすべて『古今集』や『後撰集』、『新古今集』など10の勅撰和歌集※3から選ばれたものです。100首のうちで、恋の歌は43首あり、季節では秋の歌が一番多く、16首選ばれています。

▼ジャンル別歌数一覧

ジャンル	春	夏	秋	冬	恋	その他	合計
歌数	6	4	16	6	43	25	100

※3 勅撰和歌集…天皇や上皇の命令で作られた歌集

3 「かるた」としての百人一首

百人一首は、古くは歌集として鑑賞されるものでしたが、歌集として以外にも、古典の教材や歌かるたを通して、広く親しまれてきました。競技かるたでは、上の句が詠まれるのを聞いて下の句が書かれた取り札を取るので、100首全部の決まり字を知っていることを前提として競技が行われます。『小倉百人一首』を用いた競技かるたは、現在小学生から高齢者まで幅広い世代で楽しまれ、海外の競技者も増加中です。競技かるたの試合は長時間にわたることも多く、体力も要求されることから、「畳の上の格闘技」とも呼ばれます。

4 かるた会について

かるた会とは全日本かるた協会※4に所属する、競技かるたの練習をしているクラブのような団体です。段位※5を取ったり、公認大会のC級以上の部に参加したりするには1つのかるた会に所属する必要があります。かるた会は子供から大人まで、初心者から上級者まで幅広い年齢層、レベルの人たちが所属しています。かるた会は会によって指導方針や練習頻度、運営方針などが異なります。

※4 全日本かるた協会…小倉百人一首かるた大会等の開催や段位の認定などを行っている法人

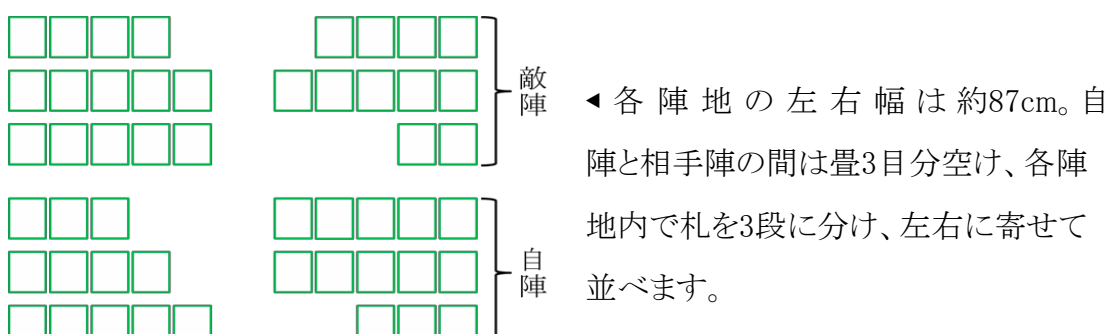
※5 段位…段位を取得するためには、公式の大会での実績が必要になります。段位は初段から十段までありますが、実力による段位は八段まで、九段と十段は特に功労のあった者で全日本かるた協会の会長、副会長の推薦を受け、特別昇段審査会で承認を受けた者に与えられます。右の表は段位の例です(→)

段位	級位	実力による昇段	段位料
無段	E級	—	—
初段	D級	E級ベスト4	1万円
弐段	C級	D級ベスト4	1万円
参段	B級	C級ベスト2	1万円
四段	A級	B級優勝など	1.5万円

第2部 競技かるたの試合

1 札を並べる

まず、対戦者が互いに向かい合って札をします。次に、100枚の札から、試合で使用する札50枚を無作為に選び、対戦者はそれぞれ25枚ずつ札を取って、自分の陣地に並べます。このとき、対戦者は自分の陣地を「**自陣**」、相手の陣地を「**相手陣**」または「**敵陣**」といいます。札は各陣地内で左右に寄せて並べるのが基本です。



2 基本のルール

札を並べ終わったら、15分の**暗記時間**で対戦者は札の配置を暗記します。暗記時間終了2分前になると、**素振り**をすることが許されます。素振りをすることで、札の配置を体の動きとともに覚えることができます。暗記時間終了後は、対戦者は再び向かい合って札をし、読み手の方向にもう一度札をします。次に、「**序歌**」と呼ばれる歌が詠まれます。序歌とは、試合開始時に詠まれる、百人一首の中に無い歌です。一般的には全日本かるた協会の指定序歌である

難波津に 咲くやこの花 冬ごもり 今を春べと 咲くやこの花

が詠まれます。続いて百人一首の100枚の札が一度ずつ詠まれますが、その中には対戦に使われない50枚の札も含まれており、これらを**空札**といいます。

対戦者は読み上げられる歌に対応する札を取ります。自陣の札を取るごとに自陣の札の枚数を1枚減らすことができ、相手陣の札を取った場合は相手陣から

札が1枚減る分、その時点で自陣にあった札をどれか1枚送って自陣の札を1枚減らします。このようにして自陣の札を減らしていき、**自陣の札の枚数を先にゼロにした方が勝ち**となります。

競技かるたの試合を見ていると、選手は詠まれた札以外にも、近くにある札も一緒に数枚払っていることがわかります。詠まれた札以外にも触っていればお手つきではないか、と思われそうですが、競技かるたには、**詠まれた札と同じ陣にある札は触ってもよい**、というルールがあります。例えば、詠まれた札が自陣にあるとき、自陣の右側でも左側でも、自陣の札すべてに触れたとしても、お手つきにはなりません。しかし、勢い余って同時にもう一方の陣にも触ってしまった場合はお手つきとしてペナルティが課せられます。

《お手つきのペナルティ 暗記があやふやだと…》

競技かるたの試合では、札の配置を誤って記憶していた場合や、対戦に使われていないが詠み手が詠む札(空札)に反応して、間違った札に触れてしまった場合、お手つきとされてしまいます。主に次の3つの状況があります。

- (1) 詠まれた札が相手陣にあるのに、自陣の札に触れたとき
- (2) 詠まれた札が自陣にあるのに、相手陣に触れたとき
- (3) 詠まれた札が自/相手陣どちらにもないのに、どちらかの陣に触れたとき

いずれの状況でも、お手つきをした人にはペナルティとして、対戦相手から1枚札が送られます。つまり、お手つきをすると、自陣の札の枚数が1枚増える一方で、相手陣からは1枚札が減ります。その分勝ちが遠ざかってしまうのです。

3 決まり字

決まり字とは、上の句(前半の五七五)を聞いて、下の句(後半の七七)が確実に取れる文字のことです。例えば、

(A)ち**は**やふる/かみよもきかず/たつたがは/からくれなゐに/みづくくるとは
という歌の決まり字を考えます。

「ち」から始まる歌は、(A)の他に

(B)ちぎり**お**きし/させもがつゆを/いのちにて/あはれことしの/あきもいぬめり

(C)ちぎり**き**な/かたみにそでを/しぼりつつ/すゑのまつやま/なみこさじとは
の2首があり、「ち」の一文字を聞いただけでは、(A)以外にも(B)、(C)のいずれかを読んでいる可能性があります。2文字目の「**は**」まで聞くと、(A)以外に「ち**は**」で始まる歌はないので、(A)の歌が詠まれているとわかり、(A)の下句である「からくれなゐに/みづくくるとは」と書かれた札を取りにいくことができるのです。つまり、(A)の歌の決まり字は「ち**は**」であり、このように決まり字が2字であることを「2字決まり」といいます。
また、

(D)きみがため/**は**るののにいでて/わかなつむ/わがころもでに/ゆきはふりつつ

(E)きみがため/**を**しからざりし/いのちさへ/ながくもがなと/おもひけるかな

のように6字決まりの歌を「**大山札**」といい、決まり字の長い札が詠まれた場合には、**囲い手**といって、札に触れずに手で囲い、相手に取られないようにする技を用いることがあります。決まり字まで詠まれるまでに時間がかかるので、詠まれる可能性がある札は囲い手をして相手に取られにくいようにするのです。

第3部 競技かるた用語解説

【あ行】

ありあけ

競技用百人一首読み上げ機。業界内シェアは限りなく100%に近いだろう。

暗記時間

競技開始前に札の配置を覚える時間のこと。通常は札を並べてから15分間与えられる。暗記時間終了2分前になると、素振りをする事が許される。

運命戦

試合終盤に自陣・相手陣とも1枚だけ札が残った状態のこと。この状況では通常自陣の札を狙うことが推奨されており、自陣の札が詠まれる方が有利であることから、「運命戦」と呼ばれる。

大山札

6字決まりの札のこと。

送り札

敵陣の札を取ったり、相手がお手つきをしたりした際に相手に渡す札のこと。自陣にある札であればどれを送ってもよい。

押さえ手

文字通り、札を押さえる取り方。

お手つき

詠まれた札が場にないののに札に触ってしまうこと。

- ・詠まれた札が相手陣にあるのに、自陣に触れた場合
 - ・詠まれた札が自陣にあるのに、相手陣に触れた場合
 - ・詠まれた札が自陣、相手陣どちらにもないのに、どちらかの陣に触れた場合
- が該当し、お手つきをすると、ペナルティとして相手陣から1枚札を送られる。

【か行】

囲い手

札を囲って、決まり字を聞いてから札を取ること。相手に先に札に触られないように札を囲う。大山札などの決まり字が長い札に使われる。

空札

どちらの陣にも置かれていない札のこと。競技かるたでは対戦に使用する札を無作為に50枚選ぶため、残りは空札となる。

決まり字

上の句を聞いて、下の句の札が確実に取れる文字のこと。転じて和歌の最初の文字からその文字までのこと。

競技線

札を配置できる範囲(各々の陣)の外周の各辺のこと。自陣の下端の線を指すことが多い。札が詠まれる前はこの線よりも自分側に手を置いておかねばならない。また、詠まれた札を直接触らず払い手をして札を取るためには、詠まれた札を完全に競技線の外に出す必要がある。

挙手

競技中に払い手で乱れた札の整理などの途中、読み手に次の札を詠むのを待ってもらうために手を挙げておくこと。きちんと垂直に挙手していない場合、審判から注意されることもある。

【さ行】

序歌

試合開始時に最初に詠まれる、百人一首の中に無い歌。一般的には、

「難波津に 咲くやこの花 冬ごもり 今を春べと 咲くやこの花」

という全日本かるた協会により指定された序歌が詠まれる。

素振り

実際に手を動かして、札を取る動きを確認すること。実際の試合では暗記時間終了2分前から素振りをすることができる。自分と札との距離感をつかみ、札の配置を体の動きとともに覚えることができる。払い練習、略して払い練とも言う。

攻めがるた

敵陣の札を積極的に取りに行く戦法のこと。対義語は守りがるた。

【た行】

読手

競技中に歌を読み上げる人のこと。読み手に同じ。

共お手つき

相手との接触によりお手つきをした場合、双方がお手つきをしたものとする。略して共お手とも言う。

友札

「あきの」と「あきか」などのように、決まり字が途中まで同じである札のこと。同じ陣に揃っていれば決まり字が聞こえるより先に取ることができる。違う陣にある場合は別れ札とも言い、決まり字まで待たなければならない。

【は行】

払い手

文字通り札を払う取り方で、手を振り抜いて札を競技線の外へ飛ばす取り方。

札流し

取り札を見て次から次へと決まり字を言っていく練習方法のこと。札落としも言う。

【ま行】

守りがるた

自陣の札を積極的に取る戦法のこと。対義語は攻めがるた。

戻り手

自陣と相手陣にわかれた友札のうち相手陣の札の方へ手を伸ばしておき、決まり字が詠まれてそれが自陣の札であるとわかった瞬間に手を自分の身体の方へ戻し、その途中で自陣の札を取る。決まり字が詠まれてそれが相手陣の札であった場合はそのまま相手陣の札を取る(これは戻り手とは言わない)。決まり字が3字以上である友札に対して行われることが多い。

【や行】

有効手

競技かるたの試合において競技者が札を取る手と定めた方の手のこと。左右どちらか一方、競技者が定めた方の手の手首より先を指す。競技中に有効手の左右を変更することはできない。

【わ行】

渡り手

自陣もしくは相手陣の中で友札がわけて配置してある際、素早く両方を取る。

お わ り に

ここまでお読みいただきありがとうございました。

本冊子を読んだことを機に、競技かるたや百人一首に少しでも興味や関心を持っていただけたら幸いです。

引き続き灘校文化祭をお楽しみください！

【参考文献・URL】

- ・カラー 小倉百人一首 二訂版 京都書房
- ・新訂国語総覧〈第七版〉 京都書房
- ・Wikipedia
- ・かるたらいふ <https://karutalife.sakura.ne.jp>
- ・全日本かるた協会 <https://www.karuta.or.jp/>



折り紙 &
能楽班

